

福島原発事故の直後、県下の嶺北地方で長澤啓行さん、小林圭二さん、振津かつみさんの講演会を立て続けに開催しました。私自身が立候補した選挙もありました。その中で、「既成組織の主催するデモには参加しにくい、個人が気軽に参加できるデモはないか。貴方が呼びかけるデモなら参加したい」という声をあちこちで耳にしました。

そういう声に押され、急きょお願いした十数名の方に呼びかけ人になっていただき、5月15日に「デモ」ではなくパレードを開催することにしました。これまで長い運動を支えてこられた不撓不屈の意志に敬意を払う意味で、県民会議の小木曾美和子さんにも呼びかけ人の一人になっていただきました。この時のパレードの参加者の大半は、30～40代の若い人たちでした。何とんでも「原発いらぬ」を歌っているミュージシャンsingjroyさんのツイッターでの呼びかけが多く、若者をいざなったのです。

引き続き6月11日、9月11日と三度のパレードを実行してきました。6月のパレードに参加された人たちから、パレードの継続と福井(嶺北)での脱原発の市民活動をすすめるネットワークをつくろうという声が増え、何れかのミーティングの後、7月に「サヨナラ原発福井ネットワーク」が立ち上がりました。

会の名称については、「原発」の文字を入れるかど

うかでも議論がありましたが、趣旨を明確にしつつ「頑固な反対派のイメージ」も避けられる名称をとということで、上記の会名となりました。

今後は、勉強会や講演会など県民への啓発活動とともに、署名運動や行政・電力事業者への要請行動などにも取り組んでゆくことになります。

私は、これまで通り「若狭ネット」のメンバーではありますが、今回誕生する新しいグループにも参加し、より広範な脱原発の県民世論づくりの活動に取り組んでゆきたいと考えています。

街頭(スーパー前)での署名活動も2回行っています。そして、9月23・24日は、崎山比佐子さんの講演会を2会場で開催しました。準備に費やしたスタッフのエネルギー発露は、これまでの私の経験を超えるものでした。たとえば嶺北地方の幼稚園・保育所を連日のように訪問し、父母へのチラシ配布を園長にお願いして歩くという活動を展開しました。

ところで反面、危惧していることもあります。文科省をはじめとする推進勢力の側からの攻勢です。県内では、各地で連日のごとく、御用学者の「放射線は怖くない」講演会が開催されています。多分、こうしたことは立地県だからこそ、執拗におこなわれていることなのかもしれません。

私のブログ [t a k a 8 6 2 1](#) (小文字) をご参照下さい。 山崎隆敏